

ほっかいどう 企業ファイル

(54)

大鎮キムラ建設

▷本社	苫小牧市日吉町1
▷支店	札幌、千歳
▷創業	1978年
▷売上高	20億5千万円(2019年3月期)
▷従業員数	59人
▷採用	6人(20年4月予定)

省エネ住宅 受注伸ばす



木村匡紀社長

1年前から販売しているエネーラ+NEOの内部

発売。現在、受注の約半数はエネーラ系の住宅で、木村匡紀社長(44)は「少ないエネルギーで家を暖めることができ、費用を削減できるのが人気の理由」と話す。全国の省エネに優れた住宅を表彰する一般財団法人日本地域開発センター(東

京)の「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー」で、エネーラ+は本年度まで9年連続で大賞に次ぐ特別優秀賞を受賞した。

地震対策にも力

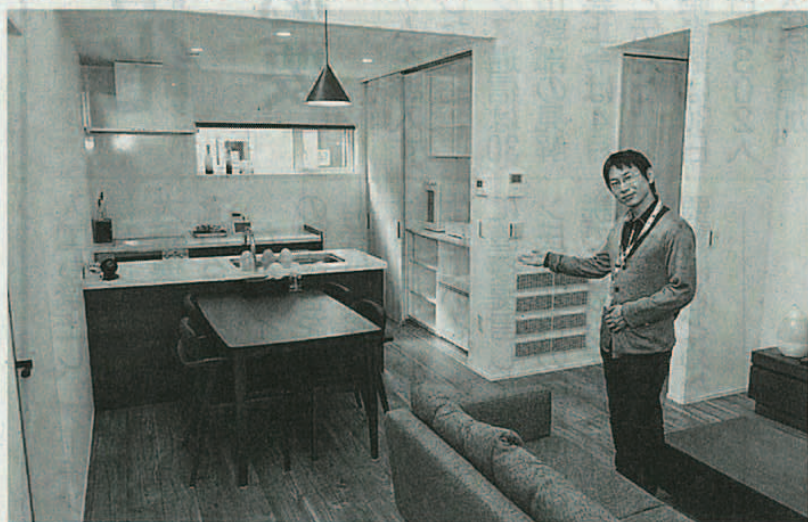
1978年創業のハウジングキムラが前身。01年に下請け中心から元請けに業態転換した。近年、地震対策にも力を入れる。18年春から静岡県メーカー製で、建物の揺れを吸収する制振ダンパー装置「エヴォルツ」を全住宅に標準装備。胆振東部地震では、1年間かけて被害を受けた約千戸の顧客の復旧支援や地震保険の対応を行った。

苫小牧市の住宅メーカーで、省エネ住宅を主力に実績を伸ばしている。販売エリアは苫小牧を中心とする道央圏。受注した住宅の年間の建築確認申請件数はこの10年間で約30件増え、ここ数年は100件程度で推移する。

暖房費用を削減

人気は太陽光発電システムを装備したオール電化住宅のエネーラ+プラス。断熱材を建物の外側のほ

か、壁の内側と基礎、屋根にも使用。窓ガラスも3重構造にし、建物内の保温効果を高めて暖房費を抑えた。光熱費から太陽光発電の売電収入分を差し引いた実質的な支出は年間約1万6千円で済み、エネーラ+以外の同社住宅の光熱費に比べ、年間34万円のコストダウンにつながるという。標準価格は延べ床面積約100平方メートルで約2200万円。2011年の東京電力福島第1原発事故を機に、自然エネルギーへの関心が高まり、受注を伸ばした。1年前には蓄電池を備え、太陽光発電の電力を夜間や停電時に使える「エネーラ+NEO(ネオ)」も



省エネ住宅以外では、外壁の素朴な色調が印象的なフランス風アンティーク住宅も手がける。昨年新たに障害者施設を2棟建設。木村社長は「一般住宅以外の建築物にも力を入れていきたい」。リフォームや分譲建て売りも増やしていく方針だ。(山田一輝)